

四十四年六月十一日
內務省認可
（每月一回十七日發行）

THE GEIBINOTOMO

藝備之友

第 二 拾 二 第
年 貳 第

目 次

口 繪——先帝明治天皇陛下最近御尊像……

賴三樹筆——淡州舟中作（保田八十吉氏藏）賴聿

菴筆——詠寒牡丹詩（新川峯吉氏藏）（アートベ）

插 繪……寫真版數種……

獻 簿……社 說

廣島縣人の東京に於ける……
團體が必要なり
維新當時の藝藩……（つゞき）
極密顧問官 船 越 衛

余と辻將曹との關係 八チャン待ちない
彼は雜掌たり我は隨身たり

廣 島 概 論……
廣島高等師範學校教授 文學士 河 野 元 三

廣島縣人は男が女に化けつゝある……
海軍大佐 眞 田 鶴 松

素蓋鳴神社に就て……
鐵道院參事 村 井 二 郎 吉

外 遊 所 感……（三）
法 學 士 小 鷹 狩 元 凱

屢空居蟲干集……（一）
前代議士 西 龜 正 夫

藝備と伊豫……（其三）
溫 故 生 夫

藝備儒學者列傳……
葦 城 學 人

阿部正弘公……（其十一）
彌 生 山 人

廣島縣人物評判記……（其二十）
田口謙吉を論ず

藝 備 文 壇……

廣島縣人消息——雜報——新刊紹介……

帝國大學卒業生十四輯續き入會者人名十五回報告

輸送は日々に 増しに是

妻こふしかのとは音ふけゆく
寐ころんて月を眺めるしめぬ戸に

おもはす浮かふうたの下の句
膳さきのさかなのよさにひと徳利

此所の仲居はあいそものなり
戀たねに活け替ておく籠のはな

こころみる茶の席の開ける
右満尾

〇廣島市歌
矢田部藤吉作歌

△第一章

天正年間 輝元公

廣島城を 築きしが

△第二章

千田貞曉 知事の時

經營慘憺 六星霜

宇品の港 築きしより

頓に海陸 聯絡し

中國樞要の 地となりて

△第三章

日清役の 策源地

大蘇遠く 進められ
勝を千里に 決したる
大本營の 跡は此處
金鷄の塔の 影高く
千載不磨の 紀念なり

△第四章
日露の役の 其折も
第五師團の 武夫は
全國師團の 戦友と
北清原野の 勇戦に
たけび狂ひし 荒鷲を
懲して功 たてにけり

△第五章
嗚呼賑はしき 廣島市
人口十有 五萬人
家居は鱗と 重なりて
商工業者も 數多し
中國無比の 大都會
嗚呼賑はしき 廣島市